

地域と協同の 111号

研究センターNEWS

巻頭エッセイ

生産者と消費者の交流が培った本物の味にふれる

荒井 聡 （岐阜大学応用生物科学部教授）

先日、農産物産直事業の歩み・課題について勉強する機会が浜松市であった。そのなかで細江農産物供給センターと東海地域の生協との間で40年以上続く、温州みかんの産直の歩みが特に印象に残った。農産物の価格を話し合いにより決めていく、規格にあまりこだわらない、など生産者により取り組みやすいかたちで産直が始まった。美味しいみかんを生育するために、樹体管理には、手作業での細心の注意が払われている。有機質肥料で健康な木を作り、慣行基準と比べ化学合成農薬の使用回数を3割削減するなど、品質維持と安全管理に務めている。



産直事業の展開のなかで、消費者の産地見学も行われるようになった。これにより、消費者が直接、みかんの栽培条件を確認する機会を得ることになる。こうした生産者と消費者のフェイス・ツー・フェイスの関係のなかで、こだわりのある栽培技術が確立してきたのではないかと、との印象を受けた。

「栽培自慢」基準により生産された今年の「細江みかん」の味は格別である。試食用として提供いただいた「岐阜市民生協」マークのあるコンテナ（写真）に入ったみかんは、賞賛の声とともにあっという間に勉強会参加者の胃に収まった。糖・ビタミン・クエン酸、甘みと酸味のバランスが絶妙である。向寒の折、免疫力快復には、絶好の栄養源である。生協店舗で販売されている細江みかんも同様の味であり、評判が良いという。これに対し、量販店で販売されているブランドであるMみかんの味は大雑把に感じる。聞くところによると、規模拡大に走り、管理作業が疎かになっているようである。細江みかんの味は、まさに、生産者と消費者の長年の交流の中で培われてきたものであろう。こうした関係を繋いでいくことがとても大事であることを実感した。

CONTENTS

巻頭 生産者と消費者の交流が培った本物の味にふれる	1
「食と農パネル」調査見学 報告	
白川町における集落営農の実例に学ぶ	2
「研究フォーラム職員の仕事を考える」活動報告	
コープみえの宮部センター長にお聞きしました！	3
紹介をいただいた取り組みについて お聞きしました	
アライダシ原生林エコトレッキング」とコープぎふ	4
情報クリップ	5-7
企画案内・書籍案内	8

研究センター 11月の活動

2日(土) 地域福祉を支える市民協同パネル世話人会
5日(火) 岐阜地域懇談会「岐阜のつどい」
“やまがた”の若者とお母さんたちと交流しよう！！
8日(金) 組合員理事ゼミナール 第7単元
11日(月) 共同購入事業マイスターコース第5回
15日(金) フォーラムF職員の仕事を考える世話人会
16日(土)～ 17日(日) 第10回 三河地域懇談会
地域のことを知ろう・語ろう 豊川市のまちおこしに学ぶ
19日(火) 暮らしを語りあう会 22日(金) 環境パネル世話人会
28日(木) 第3回東海交流フォーラム実行委員会

「食と農パネル」調査見学 報告 （文責：事務局）

白川町における集落営農の実例に学ぶ

食と農パネルでは、7月に学習会「日本農業の現状に学ぶ」を開催し、集落営農についても学びました。その実践の場を、荒井聡先生にご紹介いただき、10月30日（水）、食と農パネルの世話人9人で岐阜県加茂郡白川町を訪れました。白川町の佐見地域にある大寺営農組合の組合長の田口さんより、集落営農のお話をお聞きし、学ばせていただきました。その一部を紹介します。

《白川町の概要》

岐阜県南東部に位置し、広大な面積で山林が88%で高低差が激しい。西に飛騨川が流れ、町の中を佐見川など4つの川が扇状に流れ込み、その川に沿って集落が点在する。人口は現在9482人、半世紀で約半分になり、65歳以上は37%。農業従事者の高齢化と担い手不足は深刻。イノシシ、鹿、サル等の獣害。山間地で水がきれいで、米がおいしい。味と香りの白川茶が有名。

経過

10の営農組合が町内にある。昭和52年に、佐見地域は基盤整備をし、農業機械銀行を設立。耕運機、田植機、コンバイン等、徐々に個人持ちを少なくし作業班をつくり省力化をしてきた。麦、大豆を転作作物としたが、なかなか採算が合わなかった。平成18年4月、新しい担い手対策が国から出され、研究会を立ち上げ、1年間かけて集落営農に取り組むようになった。当時、大寺集落55戸で農家が45戸。耕地が13.4haあった。農地所有者は60歳代8戸、70歳以上が15戸で、個人でやっていたは農地を守れない。みんなに訴え、1年間かけて「集落ぐるみ型」の集落営農に取り組もうと呼びかけ、全員入って欲しいと説得した。6戸は不在地主で、耕作農家全39戸で設立した。

活動

基本理念 地域の農地は地域みんなで守ります。地域を担う農業後継者の育成に努めます。地域の環境に配慮した農業を推進します。安全で安心な農産物生産の為、ぎふクリーン農業に取り組みます。集落ぐるみの営農組合活動を通じて、健康で明るく活力ある地域づくりに努めます。

営農組合の経営面積は11.1ha。資材・機械倉庫2棟、トラクター1台、田植機2台、コンバイン1台、大豆播種機1台、ミスト4台、動力噴射機1台。白川町営農組合連絡協議会を立ち上げ大豆に関した大型機械を共同利用している。水稻（コシヒカリ）の収穫は501.3kg/10aくらい。6次産業として、「美濃白川佐見とうふ豆の力」を白川町がつくり、そこで営農組合で栽培した白川産100%の大豆で豆腐をつくっている。豆腐は町内で販売している。また、黒川沿いの「味噌女会」という味噌の加工施設もあり、女性7人で味噌の加工をしている。旅館や直売所にも出荷している。山ごぼうの味噌漬けもつくっている。

食文化の継承と地域づくり

かつて佐見地域には、集落ごとに協同の味噌加工施設の味噌室が9つあった。味噌室でもろみだけを作り、持ち帰って仕込んだ。その地味噌の味が代々受け継がれていたが、大寺の施設だけになった。やめようかという話にもなったが、ある70代の女性たちが「わたしん達はいままで地味噌で育ったし、味をなくするのはしのびがたい」と言い、残そうとなった。出資金を募って組合をつくり残すことになった。小学校3～4年生が体験学習で味噌作りに取り組み、地味噌の味を舌で覚えてもらっている。故郷の味と地域の食文化の継承をしようとしている。

地域全体で、用排水の補改修・保全・草刈りにも取り組んでいる。また「佐見の道と川を守る会」があり、ボランティア150名で、年に4回は、農林道で流木を片付けたり、草刈りや枝はらいをし、光を通すようにし、桜やもみじを河川敷に植えたりしている。そういう活動も含め、集落営農組合の構成員は地域の住民であり、地域の農地はみんなで守り、気持ちを一つにして、佐見川の清流を守ることができる。農業だけでなく、集落営農組合は集落を守るために、自治会、協議会等と佐見地域のことを一緒に考え取り組んでいる。



白川町役場でお話をお聞きした



協同で使用の大豆乾燥機、選別機

「研究フォーラム職員の仕事を考える」 活動報告 （文責：事務局）

コープみえの宮部センター長にお聞きしました！

研究フォーラム職員の仕事を考える世話人会では今年度、コープみえ・ぎふ・あいちの3生協のセンター長に今の共同購入事業に関わるセンター運営についてお聞きしようと相談し、ヒアリングに取り組んでいます。8月29日（木）にまずコープみえ大安センターの宮部センター長のお話を聞いてきましたので紹介します。

1. コープみえ大安センターの概要と宮部センター長

私はみえきた市民生協に入協し16年になり、その16年中15年がここの地域です。大安センターは4つのエリアを配達しています。大きな行政区では員弁市、菰野町があり、組合員の登録は12,535名です。世帯加入率は28%で、その内利用していただいているのは、6,300人～6,700人です。

2. センター長になって

去年からセンター長になり2年目です。担当者の時は、事業(数値目標をやりきることに)についてあまり考えたことはありませんでした。今は、数字はもちろん大切ですが、進める上で「中身」を大切にしていきたいと考えています。どういうふうに取り組んで、どういう風に組合員さんにお話を、どういうコミュニケーションをとり、すすめたか、そして、どういう結果になったかという、どういう活動をしたかということに大事にしたいと考えています。

担当者のときのモットーは「明るく、楽しく、元気よく」でしたが、管理者になって、苦しい時も、厳しい時も、それを乗り越えた時はすごくうれしく、そこを大切にしていきたいと考えています。考え方は変わっていないんですが、中身はガラッと変わってきています。また、みんなですすめる前に、個人個人のところで、すすめていかないと、逃げにつながってしまうところがあると感じています。個人と私たちがしっかり話して、コミュニケーションをとって、様子を伺い、問題意識を問いつけながら、一人ひとりを育てていき、その後「みんなで」という関係にしたいと思っています。

3. 職場の運営で

担当者は現場で、組合員と接しています。私が知らない情報をたくさん持っています。担当者が気づいたことをセンターで共有していくことによって、いろんな活動につながられます。担当者のほうが先を見て考えています。現場から何ができるのかを考えていかないと、組合員さんは離れていってしまいます。最近、お弁当のおかずで何が好きかを聞きました。みんなから出てくるのが「からあげ」でした。そこで生協キッチンで「からあげ」を調理して学ぼうと企画しました。コープみえでは、地鶏が企画されていますが、利用は厳しく、ただ単に「からあげ」を食べるのではなく、地産地消ということも含めてメーカーさんのこだわりを伝えようと計画しました。まずは「おいしさ」を学ぶということを中心に取り組み、「おいしい」ものは食べたら、次も食べたいと、どんどんつながります。例えば「どうやって油を少なくして調理ができるのか？」という、そういったいろんな提案を含めて行います。担当者がつなぐ声を、一つ一つ聞いて、そこから大安センターでの取り組みを考え、次に進むようにしています。

担当者とのコミュニケーションは、必ず毎日、誰かの声をしっかり聞くようにしています。それはあらたまった場ではなく、お昼を食べている時とか、積み込みをしている時とか、本当に普通の会話です。そういう時が一番聞けるんじゃないかなと感じています。

毎日の活動の基本は考えること、聞く前に自分自身でしっかり考えるということ、考えないとその先ができません。チームで考える前に、小さい個で考え、そこから何か見えてくるものがあると思います。自分で考えることが大切で、何を考えているのか、話すことによって、整理が出来ることもあると感じています。

これからも「明るく楽しく元気よく」を基本に、でも自分に厳しくセンター運営をしていきたいです。



紹介をいただいた取り組みについて お聞きしました

（文責：事務局）

「アライダシ原生林エコトレッキング」とコープぎふ

コープぎふから紹介いただき7月28日（日）に環境パネルで取り組み、原生林を実感し、貴重な体験となった「アライダシ原生林エコトレッキング」に関わって、始まった経過等を東濃地域担当エリアマネージャーの大山豊さんにお聞きしました。

1. エコトレッキングを始めた経過は？

恵那中津支所で継続参加している「えな環境ふえあ2010」の時、たまたま反対側のブースに「NPO法人奥矢作森林塾」のブースがあり、そこで「アライダシ原生林」の事が紹介されていました。当時参加していた恵那中津支所のエリア委員さんから「へえ～恵那にこんなところがあったんだ。行ってみたいね」という発信がありました。そこで、「アライダシへ行く事はできますか」と相談させていただいたところ、「出来ますよ」との事で、相談を重ね企画を、翌年（2011年6月4日）に最初の「アライダシ自然観察教育林体験」を9名の参加で実施しました。時を同じくして上矢作町で「NPO法人福寿の里自然倶楽部」の立ち上げ準備が進められ設立されていました。同企画の募集チラシを見られた横光事務局長の奥様が「生協でアライダシ行くよ」とご主人に伝えられ、後日、事務局長が支所にみえ、秋の企画の相談が始まりました。



7/28トレッキング様子、値上がりの木

名称も「アライダシトレッキング（現在はアライダシエコトレッキング）」に変更し、福寿の里とのコラボ企画（主催は生協）が始まり、現在（2013年夏）までに7回の企画を実施し、延べ150名程の方が参加されました（2012年度以降は春・夏・秋の3回催行）。

参加されたみなさんからは、「恵那にこんなところがあったんだ」「環境を守っていく取組の大切さがわかりました」「自然の大切さを周りの人に伝えたい」といった感想が寄せられています。

2. 今後は？

トレッキング自体は今後も続けていきたいと考えています。多治見・恵那中津支所エリアの案内から、「週刊コープぎふ」での案内に切り替え、広く県内から参加者が集まるようになりました。今後は矢作川の上流・下流地域の交流にもつなげコープあいち（みかわエリアの担当の方）との相談ができると思いいます。「コープの森づくり」も、矢作川を通じた交流ができれば、身近な地域で、より多くの組合員、地域のみなさんが参加した交流（森づくり）ができるのではないのでしょうか。

2011年度1～2月にかけて、恵那市の「過疎地域買い物支援事業実証実験」にコープぎふが参加しました。その際の「移動販売」の実験に福寿の里のメンバーにも参加頂き、上矢作町における2コースの「移動販売」を担って頂きました。この取り組みが、地域における「生活支援」についてともに考える一歩となりました。また、福寿の里のネットワークを通じて、上矢作町内にある「石川トマト農園」さんと出会う事ができました。今秋より、恵那店で「フルーツトマト」の扱いを実験的に始め、組合員さんによる交流も含めて「産消提携」の取り組みをすすめていきたいと考えています。

くらしたすけあいの会東部地区（多治見・恵那中津支所エリア）では、現在「おたがいさま東部」創りを進めています。こうした「助け合い活動」も過疎地域が抱えるくらしの課題・問題の解消・解決に向けてお役にたてると思っています。「買い物支援」はもちろん、家事援助や援農等くらしを巡る“困った”は多く、町内住民はもとより、近隣組合員も参加して地域を維持・発展させていく事が出来れば良いと思います。利用料金の面等でも「おたがいさま」はそう簡単ではないと思いますが、社会保障費の引き下げ、サービスの低下・縮小等を考慮すると自助・共助のウエイトは益々高まるものと思います。NPOだけでなく、地域の皆さんとの「協働」は益々大きな意義をもってきます。

情報クリップ



メインタイトル・特集など 刊行物名・発行所	目次・主な内容	発行年月 判型 定価(税別)
<p>▶組合員に しっかり向き合うと もっと仕事楽しくなる</p> <hr/> <p>COOP「生協運動」改題 NAVI</p> <p>2013.11 740</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>▶特集 組合員にしっかり向き合うと もっと仕事楽しくなる</p> <p><仲間たちはいま> 千葉県庁生協 保険事業課 保険相談室室長 浦崎正光さん <防災365日> PART8 外出時の防災 外出中に地震が発生したら <宅配・現場レポート> コープ九州事業連合 カットすいかの配達 <声に応えた商品改善レポート♪> コープ商品のQRコード掲載 <生協の店づくり最前線> おかやまコープ コープ北畝 <ボからは商品探偵団> 鶏のプロが作った国産若鶏のチキンナゲット <つながろうCO・OPアクション情報> おしゃべりサロン開催 コープみらいほま <明日のくらしささえあう COOP共済> コープあおもり <林家たい平 笑顔が見たくてこの仕事> 其の八 <CO・OPニュースフラッシュ> エフコープ コープこうべ <思わず話したくなる！生協の基礎知識> 第7回 [欧州の生協編③] <この人に聞きたい> ジャズヴォーカリスト 豊田チカさん <もっと知りたい！ CO・OP商品> 無漂白塩かずのこ</p>	<p>2013年 11月 A4版 39頁 定価 350～円</p>
<p>▶私の家族は認知症</p> <hr/> <p>医療生協の情報誌 COMCOM</p> <p>2013.11 555</p> <p>日本医療福祉生活協同組合 連合会</p>	<p>▶特集 私の家族は認知症</p> <p>[インタビュー] 忘れていくのも良かばい 漫画家 岡野雄一 [リポート] 「働きながら介護をする」ということ。 [シビのつぶやき⑩] 「みんなの居場所」、地域に増やそう♪ 本のおもちゃ屋 店主 中根桂子 [住まう⑩] サービス付き高齢者向け住宅（後編） [介護十人十色⑩] 若くして認知症を発症した本人を家族の「居場所」を作りたい（後編） 若年性認知症支援の会 愛都の会 サポーターのみなさん [TOMOそだち⑩] ピアカウンセラーの学びと成長も大切に 「ピアっ子あいち」代表 清水亮・多川三紀子 [協同のある風景] 210 野菜に添えたメッセージ ～被災地福島に想いを届ける浜北医療生協～ [認知症の歴史 ⑩] 混浴の風景 写真家 田邊順一</p>	<p>2013年 11月 A4版 40頁 定価 400円</p>
<p>▶障がいという 個性を活かして</p> <hr/> <p>はじめる！人がつながる 社会が変わる のんびる</p> <p>2013.11 No.85 パルシステム 生活協同組合連合会</p>	<p>【特集】 障がいという個性を活かして</p> <ul style="list-style-type: none"> *「福」かすたねつとのぎょうざの仲間たち 社会福祉法人花水木の会 かすたねつと 東京都練馬区 *こころがなごむ昭和モダンの大衆食堂 社会福祉法人 オリーブの樹 花まんま 千葉県千葉市 *手話が公用語のコミュニティカフェ Social Cafe Sign with Me 東京都文京区 *個性に合わせて仕事を創り出す 地域作業所 hana 千葉県木更津市 *「活躍の場、見つけるまで！」を応援 飯山中央出荷組合 えのき生産者 日台英明さん、まり子さん 長野県 *働くことの喜びや社会の幸福感を感じてもらえる誌面づくりを 季刊『コトノネ』編集長 里美喜久夫さん はたらくよるこびデザイン室 東京都目黒区 <p>内山節 里山から考える 第47回 野菜作りはととも頭をつかう 老いについて(2) 色平哲郎の「地域と医療からみる未来のかたち」第20回 「真実」をものがたる老女たち</p>	<p>2013年 11月 B5版 48頁 定価 315円</p>

<p>▶消費者教育推進法をめぐって —消費者基本法まもなく10年—</p> <p>生活協同組合研究</p> <p>2013.11 454</p> <p>(財)生協総合研究所</p>	<p>■ 巻頭言 生協の連邦的分権性 —スイスの協同組合から学ぶこと— 麻生幸</p> <p>▶特集 消費者教育推進法をめぐって - 消費者基本法まもなく10年</p> <p>消費者庁長官へのインタビュー 阿南久 (聞き手) 磯部浩一</p> <p>消費者教育推進法の意義と消費者市民社会 西村隆男</p> <p>消費者教育推進法と求められる消費者の対応 野々山宏</p> <p>グローバル時代と消費者教育推進法 島田広</p> <p>生協と消費者運動 / 略史 斎藤璋</p> <p>■ 講演録 自民党の日本国憲法改正草案について考える 坂口正二郎</p> <p>■ 研究と調査</p> <p>生協共済会2013年度海外調査 —韓国農協を訪問して— 松本進</p> <p>■ スペイン協同組合事情 第3回</p> <p>スペインにおける連帯経済の現在 廣田裕之</p> <p>■ 海外事情</p> <p>ユーベラティブ・グループ(CG)の2013年度中間決算 藤井晴夫</p> <p>■ 被災地からの報告 福島が生産・流通現場の現在 宮崎達郎</p> <p>■ 新刊紹介</p> <p>橘木俊詔 『「機会不平等」論』 斎藤真吾</p>	<p>2013年 11月 88頁 B5版</p>
<p>▶持続可能な農業の実現</p> <p>月刊JA</p> <p>2013.10 704</p> <p>全国農業協同組合中央会</p>	<p>特集 持続可能な農業の実現</p> <p>(3) 新たな担い手づくりに向けて</p> <p>①日本農業の現状と担い手づくりの方向性 安藤光義</p> <p>②集落営農の経営発展・法人化に向けた取り組みについて</p> <p>JA全中営農・農地総合対策部</p> <p>③事例にみる新規就農者の育成支援について JA全中営農・農地総合対策部</p> <p>④多様な課題に向き合うJAによる農業経営 李侖美</p> <p>・きずな春秋 —協同のこころ— 童門冬二</p> <p>・ミノールからこんにちは / JAグループの共通コンテンツ</p> <p>・協同の実践に学ぶ 先人の言葉・内山清一朗 白石正彦</p> <p>・直言! JAへのメッセージ</p> <p>誰もが誰かのために: 夢の食料供給体制 浜矩子</p> <p>・協同組合の広場 日本生協連、JF全漁連、全森連、全国信用金庫協会</p> <p>・次代へつなぐ地域社会のために</p> <p>支店協同活動の戦略的展開 ~JAグリーン近江の取り組み 西井賢悟</p> <p>・展望 JAの進むべき道 心技体の重要性 五十嵐信夫</p> <p>・地方紙ニュース</p> <p>第32回 若い感性をいかに活かすか 中村勉 (茨木新聞社)</p> <p>・海外だより [DC通信] 30</p> <p>財政にゆれるアメリカ議会とオバマ大統領の思惑 古林秀峰</p> <p>・協同の力で農業と地域を豊かに</p> <p>地域力を活用した「命を育てる教育」(後編)</p> <p>~全小学校での「喜多方市小学校農業科」の実践 青山浩子</p> <p>次代へつなぐ協同実践塾</p> <p>・持続可能な農業の実現</p> <p>JAグループの農作業安全対策の取り組みについて</p> <p>JA全中営農部・JA農地総合対策部</p> <p>・豊かで暮らしやすい地域社会の実現</p> <p>「JAみなみ信州豊丘支所の取り組み」について</p> <p>—働きがいのある職場づくりをめざして— Jみなみ信州豊丘支所支所長遠山邦一</p> <p>・10年後JAが存続するために</p> <p>購買事業でのPDCA(仮題) JA全中経営対策本部</p>	<p>2013年 10月 A4版 64頁 年間購読料 4,800円(送料込)</p>
<p>▶人権が日常にある社会へ—ポスト3.11のものさし</p>	<p>特集 人権が日常にある社会へ - ポスト3.11のものさし</p> <p>福島県民健康管理調査は「健康に関する権利」を保障するのか</p> <p>三木由希子 (情報公開クリアリングハウス)</p> <p>過去・現在・未来、命から、原発を問う</p> <p>原発を問う民衆法廷実行委員会</p> <p>スフィア・プロジェクト~人を中心に据えた人道支援の実現の試み</p> <p>松尾沢子 (国際協力NGOセンター)</p>	<p>2013年 10月 B5版 64頁 頒価500円</p>

<p>社会運動</p> <p>2013.10 403</p> <p>市民セクター政策機構</p>	<p>市民金融研究会 ・生活クラブ共済連がめざす市民金融としての共済 小島一記(生活クラブ共済連)</p> <p>・NPOバンクの取り組みの動向 内田映子(女性・市民コミュニティバンク)</p> <p>・ヨーロッパの協同組合銀行に学ぶ 重頭ユカリ(農林中金総合研究所)</p> <p>市民金融の現状と課題 -「生協金融から生協信用へ」を模索して(第1回) 松崎良(行政書士)</p> <p>・TPPと法律問題 関英昭(青山学院大学名誉教授)</p> <p>・連載 TPPが破壊する日本の食 第2回 危険な米国産牛肉・・・国産ならば安全か? 白井和宏(生活クラブ・スピリッツ)</p> <p>・抄訳 『エネルギー協同組合 - 良き社会における市民・自治体、地域経済』 第2回 翻訳 手塚智子</p> <p>『艦砲』は歌い継がれる 第4回 玉砕の島を生き抜いて(下) 葉上太郎(地方自治ジャーナリスト)</p> <p>書評 ジャン・ルイ・ラヴィル編著『連帯経済』 今井迪代(明治大学大学院)</p>	
<p>▶宅配事業活性化に 向けた取り組み</p> <hr/> <p>生協運営資料</p> <p>2013.11 274</p> <p>日本生活協同組合連合会</p>	<p>巻頭インタビュー わが生協、かくありたい! 地域の組合員や生産者、取引先、田団体などから「コープあいちができてよかった」と思われる生協を目指します。 コープあいち●理事長 夏目有人氏</p> <p>特集 宅配事業活性化に向けた取り組み</p> <p>1 仲間づくりと利用定着に向けた取り組み コープ東北サンネット事業連合 ●共同購入運営本部 本部長 尾川輝敏氏 ●共同購入運営本部 課長 秋葉良広氏 ●共同購入運営本部本部長補佐 佐藤博幸氏</p> <p>2 宅配商品のMD改革とマーケティングの取り組み コープネット事業連合● 執行役員 宅配商品担当 太田俊也氏</p> <p>3 管理会計マネジメントにより組合員満足とコスト削減をねらう 大阪いずみ市民生協● 執行役員 宅配事業部長 店長 松本英二氏</p> <p>4 「消費者社会の変化への対応と人口減少市場の基本戦略」 京都大学経営管理大学院● 教授 若林靖永氏</p>	<p>2013年 11月 B5版 89頁 定価850円</p>
<p>▶東日本大震災からの 復興と協同組合の 役割・課題</p> <hr/> <p>にじ</p> <p>2013 秋号 第643号</p> <p>社団法人J C総研</p>	<p>【特集】東日本大震災からの復興と協同組合の役割・課題</p> <p>特集解題 濱田武士(東京海洋大学 准教授)</p> <p>第I部 論考編</p> <p>震災復興に何が求められているのか 岡田知弘(京都大学大学院教授)</p> <p>被災地農業の復興と農協の役割 田代洋一(大妻女子大学 教授)</p> <p>産業復興とコミュニティ 松永佳子(大阪市立大学大学院 准教授)</p> <p>第II部 動向編</p> <p>大震災からの復旧過程に見る漁協の性格と課題 加瀬和俊(東京大学教授)</p> <p>原子力災害下の福島県農業の現状と協同組合ネットワークの取り組み 小山良太(福島大学 准教授)</p> <p>東日本大震災と協同組織金融の思想 -新しい東北ビジョンとソーシャル・キャピタルの蓄積に向けて- 長谷川勉(日本大学教授)</p> <p>第III部 実践編</p> <p>「仮設商店街」に見る店舗の連帯 松永桂子(大阪市立大学院 准教授)</p> <p>地場産業を元気に! 「食のみやぎ復興ネットワーク」の取り組み 藤田孝(みやぎ生協「食のみやぎ復興ネットワーク」事務局)</p> <p>原発災害後の森林組合の取り組み その現状と課題 早尻正宏(山形大学准教授)</p> <p>災害復興に取り組む福島県の漁業と漁協 濱田武士(東京海洋大学 准教授)</p> <p>漁村に根づく相互扶助の精神 宮城県旧歌津町の「契約会」を事例に 大浦佳代(海と漁の体験研究所)</p> <p>みんなで作る復興まちづくり わたりグリーンベルトプロジェクト 「みんなでこせっぺ(つくろう)!おらほ(私たち)の森」 細田幸恵(一般社団法人 ふらっと一ほく)</p>	<p>2013年 秋号 B5版 201頁 定価1600円</p>

地域・協同の運動、協同組合に関する文献資料、協同組合・生協関係の研究所などの調査研究成果や研究センター会員の研究成果などから、比較的入手しやすいと思われるもの、寄贈いただいたもの(※)などを中心に順不同で紹介しています(主な内容は目次等から事務局が要約しています)。詳細は研究センター事務局までお気軽にお問い合わせください。

企画案内

つながれっと名古屋 講演会市民交流事業

社会に活かす「評価の実践」

●12月7日(土)13:30~15:00

会場:つながれっとNAGOYA 交流ラウンジ
(JR/地下鉄「鶴舞」駅下車徒歩5分)

・講師:山谷清志(同志社大学教授)

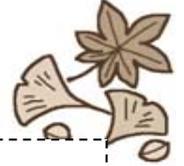
・参加費 500円 ・託児 有り。実費負担500円

参加申し込み/問合せ先:つながれっとNAGOYA インフォメーション TEL.052-241-0311

FAX.052-241-0312 ⇒http://www.tsunagalet.city.nagoya.jp/lecture/2013_016.html

●電話、FAXまたはEメールにて受け付けます。詳しくは 

「評価は社会の改善活動である」と理論と実践を積み重ねている山谷清志氏を招き、男女共同参画の視点に焦点をあてた評価について考える講演会です。



地域密着型福祉全国セミナー in 豊田

●1日目(全体会) 2014年1月18日(土) 13:00~17:30 豊田市コンサートホール

●2日目(分科会) 1月19日(日) 8:30~12:30 豊田市福祉センター

主催:「地域密着型福祉全国セミナーin豊田」実行委員会

共催:豊田市、(社福)豊田市社会福祉協議会・全国コミュニティライフサポートセンター

詳しくはこちらを⇒<http://www.clc-japan.com/event/event.cgi?mode=details&num=536>

書籍案内

危ないリニア新幹線

リニア・市民ネット[編著] 出版:緑風出版 四六判上製

ページ数:304頁 定価:2400円(税別)



世界12月号に、この著者の一人でもある橋山禮治郎教授(千葉商科大学)のリニア新幹線は再考せよー建設強行は国家100年の愚策一という文章が発表されました。橋山教授は、一環して、赤字問題・リニアは絶対にペイしないという採算問題・経済問題から再考を提起されています。その他、この本では、環境問題、電磁波問題、南海トラフ巨大地震、原発との関係が簡潔にまとめられています。最後に、計画沿線の市民の声が甲府市、長野県大鹿村、飯田市、東京・神奈川、相模原、中津川から報告されています。

いよいよ環境影響評価準備書を発表し、東京・名古屋間の路線ルート、停車駅の位置、駅構造図等を公表しました。巨額をかけて環境破壊をし、東京・名古屋間101分かけて行くのか、40分で行くのか。(但し、リニア新幹線は、名古屋・品川間とされています。また、乗り継ぎには、15分掛かると言われていますので東京・名古屋間でも80分程度はかかりそうです。)国民のみなさんが考えることが一番必要なのではないでしょうか。 三重県生協連 岡本

2013年11月25日発行(毎月25日発行)

定価200円

(税・送料込み。年会費には購読料が含まれています)

発行 特定非営利活動法人地域と協同の研究センター

代表理事 川崎直巳

〒464-0824 名古屋市千種区稲舟通1-39

TEL 052-781-8280 FAX 052-781-8315

E-mail AEL03416@nifty.com

HP <http://www.tiiki-kyodo.net/>

研究センター 12月の活動予定

4日(水) 常任理事会

5日(木) 事務局会議

7日(土)・8日(日) 社会文化学会第16回全国大会

9日(月) 寄付講座講師会議

10日(火) 三重のつどい 世話人会

11日(水) F職員の仕事を考える センター長ヒアリング

12日(木) 食と農パネル世話人会

18日(水) 協同の未来塾企画委員会

21日(土) 東海交流フォーラム実行委員会/ 理事会

22日(日) 生協の未来のあり方研究会